

ショートコメント vol.247 (2022年6月21日)

テーマ：コロナ禍は小康状態も人流の回復は遅れたまま
～インフレによる不況サイクルの発生も否定できず～

●感染状況の沈静化

3月のまん延防止等重点措置の解除以降、コロナ禍は小康状態が続いている。

各地で新規感染者数の緩やかな減少傾向が続き、懸念されたGW後の感染再拡大リスクも何とか回避できた(図表1)。その結果、インバウンドの入国再開など、いわゆるウィズコロナを見据えた動きが始まろうとしている。

その一方、平日の人流については、期待を下回る動きが続いている。まん防の解除以降の回復ペースは概して遅く、都市部を中心とした消費回復の遅れにもつながっている。

●人流回復の遅れ

実際に米 Google 社が公表している位置データを元に、平日の小売関連 (retail and recreation) の人流をみると、3月下旬以降の回復は非常に緩慢なものとなっている。

図表2は東京、大阪の動きであるが、感染第5波後にあたる、21年11～12月の推移を大きく下回っている。大阪はコロナ前(20年1～2月)比で15%減、東京は20%減の水準がほぼ天井となっており、それ以上の回復が進んでいない。

これに伴い、都市部の各業態では客足の回復が進まず、百貨店や大型商業施設などを中心に、売上は期待を下回る動きとなっている。

●地方圏の動き

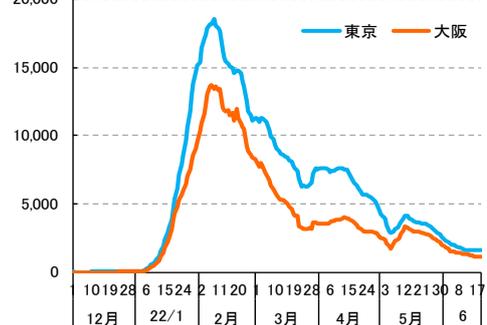
この人流の回復の遅れは、感染の推移に起因するとの見方が少なくない。感染者数は第6波のピークに比べるとかなり減ってきたものの、足元の減少傾向は緩やかなものにとどまる。大阪や東京でも、直近で1日千人を超える感染者数を記録するなど、一定の感染が続いていることは否めない。

そういった中、シニアを中心にまだ外出を控える傾向が残っていることで、人流の回復の遅れを招いている可能性はある。

一方、回復が遅れている要因はこれだけではないとみられる。というのは、感染が比較的落ち着いた地方圏でも、同じような動きがみられるからである。

図表3は、滋賀、奈良、和歌山の人流の推移であるが、和歌山を中心に回復の動きはかなり鈍い。3県ともに感染第5波の

【図表1】 新型コロナの新規感染者数の推移 (7日間移動平均)



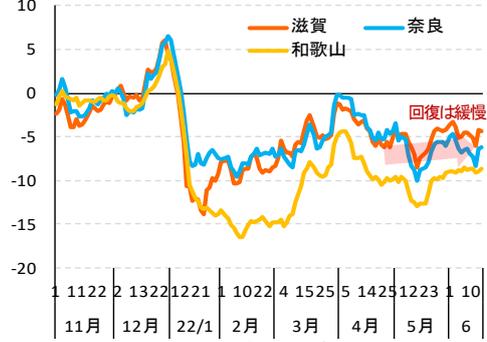
(出所) 東京都、大阪府ホームページ

【図表2】 小売・娯楽関連の人出(平日、7日間移動平均)



(出所) Google「コミュニティモビリティレポート」
※数値は20年1～2月平均との比較

【図表3】 小売・娯楽関連の人出(平日、7日間移動平均)



(出所) Google「コミュニティモビリティレポート」
※数値は20年1～2月平均との比較

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

収束後は、人流がプラス圏に達するなど、コロナ前を上回る推移をみせていた。3月以降は、いったん下旬にかけて回復が進んだ後、再び減少に転じ、足元は一進一退の動きが続いている。

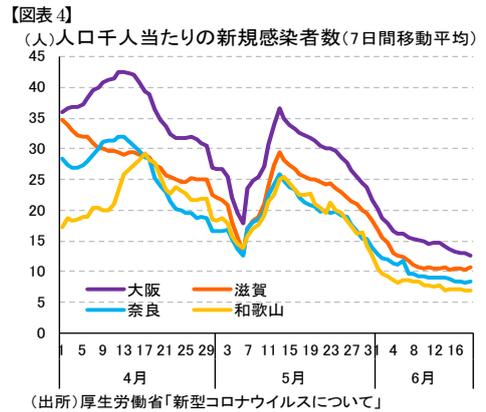
3県の感染状況については、人口千人当たりの感染者数が、和歌山や奈良では1けた台で推移するなど、大阪の約半分までにまで減少が進んでいる(図表4)。これをみる限り、特に和歌山ではもっと人流の回復が進んでもおかしくない。

●インフレによる悪影響への警戒

そういった中、足元の人流の回復を妨げている要素として、物価の上昇による消費マインドの低下も無視できないと考えられる。

昨年後半からエネルギー相場の高騰が始まり、ガソリン代や電気料金などが急激に上昇してきた。家計負担の増加が進む中、消費マインドが悪化し、外出の動きが増えにくくなる可能性は否定できないのではないかと。

この点はもう少し様子を見る必要があるが、仮にインフレの影響で人流の回復が妨げられているとすれば、いわゆる通常の不況サイクルの入口とみることもできる。今後さらに感染が落ち着いても、消費の回復がスムーズに進む期待は薄い。当面の人流の推移に注目する中で、仮に今の状況が続くようであれば、消費の回復には政府の需要喚起策による後押しが不可欠とみるべきであろう。



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL：06-6258-8805 mail：hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。